

Career path Guide

DC・PDのための進路選択ガイド



●特集

若手研究者座談会

「多様なキャリアパス…行動力が未来を拓く！」

●S-cubic 活動状況

●企業の声

●今後の北大における若手人材育成について

●就職協定について

北海道大学 基礎科学人材社会活躍推進計画

【S-cubic イベントスケジュール】

赤い系会・札幌を開催します！ ぜひ奮ってご参加下さい。

■開催日時/H21.2.23(月)13時～20時

■開催場所/センチュリーロイヤルホテル(札幌市中央区北5条西5丁目)

■参加企業/㈱アミノアップ化学、出光興産㈱、協和発酵キリン㈱、大成建設㈱、
帝人㈱、㈱東芝、日本軽金属㈱、㈱日本製鋼所、ベリングポイント㈱、ボツシュ㈱

※イベント最新案内については、S-cubicホームページにアクセスして下さい！

<http://www.sci.hokudai.ac.jp/s-cubic/>

S-cubic 北海道大学

検索

若手研究者座談会

多様なキャリアパス…行動力が未来を拓く!

参加者 広瀬 大輔(理学院 数学/DC3)、黒澤 徹(理学院 量子理学/DC1)
郭 桂芬(農学院 環境資源学/DC3)、市村 豊(工学研究科 機械宇宙工学/DC2)

- キャリア選択について
- 研究活動と就職活動
- 赤い糸会について
- 北大キャリアパス支援事業について

I N T E R V I E W

今回の座談会は、平成20年11月4日に東京で開催された「赤い糸会」(電気・機械系企業)に参加いただいた若手研究者の中から4名にお集まりいただきました。数学、物理、農学、工学と専門・所属が違うと学内でもなかなか出会う機会はありませんが、専門分野を超えて、「赤い糸会」の参加をきっかけに知り合うことができた皆さんが、キャリアパスについて熱心な討論を繰り広げました。

□ キャリア選択について

—— まずは、キャリア選択についてお聞きしたいのですが、皆さんはご自分のキャリア選択をどう考えていますか？研究機関に就職するとか企業に就職するとか、アカデミックポストを狙うとか、いろいろな道があるかと思うのですが、どうお考えでしょうか？

広瀬：私はアカデミックポストを希望しています。現在の研究を活かすのであれば、アカデミックポストだろうと思って頑張っています。ただ、アカデミックポストを狙うにしても、何らかの形で企業とコミットしていきたいと思っていますので、この座談会にも参加させていただきました。

黒澤：私の場合、企業で働くということに對してのウエイトが高いと感じています。この前の赤い糸会に参加しまして、企業にも大学でやっているような基礎研究を行っている方がいるということを知りました。企業しか考えていないというわけではなく、企業も考えている、ということです。

郭：私は、研究所や大学助教の応募などもしましたが、企業の面接も受けていますし、日本学術振興会(JSPS)のポストにも応募しています。将来的には、研究開発をやりたいのですが、研究ばかりというわけではなく、中

国語もできるので、中国語を活かしたグローバルな業務も目指したいと思っています。

市村：私の場合はちょっと特殊かと思いますが、学位の取得はせず、大学を退学して就職するつもりです。今は企業に絞って就職活動をずっと行っています。

—— 就職について、企業か、アカデミックかを決めたのはいつごろですか？

市村：今年の9月くらいからです。それまではアカデミックポストも考えていました。企業が面白そうだったのは、3月の赤い糸会の研究所見学会からです。

郭：私の場合は、今年の7月には就職しようとして、最初は研究所なども考えていました。

企業は基礎研究をしないのではないかと考えていたのですが、10月から色々会社の見学などをして、以前のようなイメージはなくなりまして。今は、企業でも十分成長できると思っています。

広瀬：迷いはあったのですが、初期の頃からアカデミックポストを考えていました。

—— 就職について周りの方に相談しましたか？

市村：私の場合は、S-cubicのJ-windowに行ったり、キャリアセンターに行ったり、工学部の就職担当の先生に相談したり、とにかく色々な人に相談しました。

郭：私はキャリアセンターのセンター長のところに相談に行きましたし、農学部の担当の先生や指導教官の先生にも相談しています。

—— 就職活動について、研究室内や、周りの方の理解は得られていますか？

市村：理解度はとてもあります。就職活動をするという理由で、ゼミなどは休めます。

郭：私の場合は、先生に推薦状を出してもらったりしていますが、暖かく応援してくれています。面接に行くということであれば、お休みなをもらえます。

また、今年は難しいけれど来年度の就職については、早い段階で紹介してくれる、という話をしてくれています。

広瀬：理学部でも研究室によっては変わるのかもしれませんが、数学については、時間の縛りというはありません。そういう点では非常に理解があるといえると思います。

□ 研究活動と就職活動

—— 研究活動と就職活動の両立は難しいという声を聞くのですが、そのあたりはどう感じていますか？

市村：研究活動と就職活動を両立させるのは相当難しいですね。

スケジュール的にも難しいというのがありますし、面接試験などを受けると、合否が気になって、研究に集中できないですね。

DCの場合、学位をとれる見込みがたつてから就職活動をするというのが多いと思います。その場合、就職活動としては遅すぎるというのがあると思うので、難しいですね。今後の課題なのではないでしょうか。

郭：私の場合は、博士課程の前半は就職活動をせず、研究に専念していました。

7月までに実験は終えまして、10月まで論文を書きながら、情報収集をしていました。今は学位取得できそうなので研究の心配はなく、就職活動はできるのですが、就職活動の時期としては遅くなってしまいましたので、両立は難しいですね。

広瀬：実際には就職活動と学位取得の両立は難しいですね。

ただ、企業によっては、学位がなくても採用するところはあるようなのですが、



そのあたりは実際に企業の就職活動をしてみて、どうでしたか？

市村：ほとんどの企業に関しては、学位がなくても修士扱いで採用するというのではなかったね。

博士号を取得していないと確かに多少は不利になるかもしれないですが、門前払いではないと思います。

これは強く伝えたいのですが、博士に限らず、学士、修士で中退しても、企業に就職することは可能ですので、就職活動をあきらめないでほしいということですね。

郭：ある企業でも、DCに対して望んでいるのは、博士課程で学んだ知識を100%活かしてほしいというわけではなくて、博士課程での経験が重要だということを言われましたね。

—— 現在の研究内容を企業で活かしたい、という気持ちが強いのですか？

市村：大学でやっていることがそのまま企業の仕事に直結するということは少ないと思っていますので、私の場合は特にこだわってはいないです。

企業の方と面接して思ったのですが、企業は具体的な研究例には興味はなく、研究をやっている時のアプローチの方法とか、物の考え方とか仕事の考え方を見ているのであって、最終的には仕事の方法論・仕事のやり方を評価しているんですね。

自分のやっている事が企業の研究と違うということは心配しなくていいと思います。



- キャリア選択について
- 赤い糸会について
- 研究活動と就職活動
- 北大キャリアパス支援事業について

郭：私は、今の分野にこだわっていないのですが、企業のほうから、ちょっと分野が違うので難しい、ということを言われたことはあります。

広瀬：企業の方に聞いたのですが、企業では同じ研究を続けているのは稀で、4～5年のスパンで全く新しいことをしなければならぬ。

そのためには、柔軟に対応していかなければならないので、ある分野の専門能力ではなく、その分野に対して自分がどれだけやったかという研究能力を評価している、ということでした。

郭：いろいろ試験を受けましたが、自分の熱意や研究内容を伝えるのにもテクニックが必要ですね。

面接ではいい印象だったのに落ちてしまうと、どうしていいかわからず、悩みます。

企業が博士にどういった能力を求めているのか把握したいし、博士の場合は、就職活動のアプローチも違うと思いますので、もしそういうセミナーがあったら出たいと思います。

市村：面接に関していいますと、MCや4年生向けの面接のように一般的な質問だけでなく、研究についてのプレゼンテーションや、研究についてのディスカッションをするように、博士だからということで面接内容を変えているということもありました。

博士の場合、企業の面接内容が変わるといことも頭に入れておいたほうがいいと思います。

「何でもやります」というと、何も考えていないようにとられるので、具体的にこういう研究をやりたい、ということを行ったほうがいいと思います。

DC向けの就職の参考書はないですよね。とにかく情報が全くないです。

もうちょっと情報があつたほうが動きやすいし、不安がなくなるのかなと思いますね。

—— DC向けの面接トレーニングがあつたほうがいいですか？

市村：トレーニングというほどではなくても、どういことを聞かれるのか、ということがわかれば良いと思います。

郭：DC向けの就職セミナーとか座談会などがあるといいと思います。

—— 広瀬さんの場合は、アカデミックポストを希望しているとのことですが、どのような苦労がありますか？

広瀬：アカデミックポストも公募という形で出ていますが、やはり難関だと聞きます。

何回も応募して、少しずつキャリアを積んでいくしかありません。

市村：企業・アカデミックポストに限らず、試験については、もし落とされたとしても落ち込まない、前向きに数をこなす、というのが大切だと思います。活動をやめてしまうのが一番いけないことだと思います。

□ 赤い糸会について

—— 赤い糸会に参加した感想を聞かせてもらえますか？

郭：赤い糸会は、私にとって非常に良かったです。関連の仕事を紹介してくれるという話もいただきましたし、企業の方とは、コンタクトをとっていきたくと思っています。

農学部でも積極的に採用してくれる企業が増えてくれれば、助かります。

広瀬：赤い糸会は、若手研究者が企業就職するということを意識していると思いますが、それとは別に、一研究者として研究の意義を企業に伝える、そういう場としても機能するのではないかと思います。

社会にとって数学は何をやっているのかというのが見えづらく、数学が先細りする可能性がある、ということを危惧しておりまして、数学の意義を企業にアピールしないといけないのではないかと私は思っています。

ですから私は、数学科の人に参加したほうがいいと言いたいと思います。数学科が欲しいという企業もいっぱいありました。



赤い糸会の様子(企業講演を聞く研究者)

例えば、ある企業の話になりますが、数学科出身の人がいて、その人の研究はよくわからないという声もあつたようなのですが、上層部の人が、この研究は絶対役にたつから続けさせようということで研究を続けさせたところ、暗号の世界基準を作つて見事花開いたそうです。



赤い糸会の様子(企業との懇談)

企業では数学の研究を活かせることはできないだろうと思つていたのは間違いだつたと思つました。

赤い糸会に参加するのは、就職するうえでもいいと思いますし、アカデミックポストに進む場合にも、企業と接することで関わりを持てたらそれはいいことですし、もし持てなかつたら、それだけ社会と離れたことをやっているということを客観的に認識できると思つます。

市村：民間企業がどういことをやっているのかを知るだけでも勉強になると思つます。



また、赤い糸会で東京までの旅費を補助していただけるのは助かりますね。

企業研究所見学会も勉強になるので、良かったですね。ぜひ続けてほしいと思つます。

□ 北大キャリアパス支援事業について

—— S-cubic事業を含めて、北大キャリアパス支援事業への要望はありますか？

市村：大学院教育の話になりますが、DCについては、きちんとしたカリキュラムや講義もないので、博士課程についてきちんとしたシステムを作つてもらいたいと思つます。

真面目にやつていればDC3年で修了でき、就職もできるというシステムにしてほしいと思つます。S-cubic事業については、とにかく続けていってほしいですね。

DC向けに、企業との橋渡しをしてくれる機関があるというのが心強いと思つます。

予算の関係で、東京で赤い糸会ができなくても、札幌で年2回赤い糸会を開催するだけでもいいと思つます。

また、文系のDCのほうが、就職難というのが深刻かと思つますので、S-cubicの事業を文系にも拡大してほしいと思つます。

文系の博士課程修了の方を採用してくれる企業を集めた赤い糸会のようなものを開催してくれるといいと思つます。

その他、アカデミックポストを狙っているDCやPDを対象にした支援システムもあるといいと思つます。今は個人で解決しなければならぬので、非常に大変だと思つます。

さらに、若手研究者として大学を中退した人やPDの任期が切れた人向けのサポートシステムもあるといいと思つます。

郭：DC向けの企業の求人情報を集めて流してもらえればいいと思つます。

広瀬：S-cubic事業は非常に至れりつくせりのシステムだと思つますが、あまり知られていないと思つますので、たとえば、先生からメールを送つてもらつたりして、宣伝したほうがいいと思つます。

—— ご意見参考にさせていただきます。本日はありがとうございました。

【座談会を終えて】

今回は数学、物理、工学、農学を専門とする大学院生にキャリア選択、就職活動など自分なりの取り組み、大学への要望などを討論していただきました。DC・PDに用意された多様なキャリアパスにどう取り組んだらよいでしょうか。まずは研究室内外のいろいろな人間交流で、自分にはない発想・意見を聞き、研究と産業が両立する社会に目を向ける姿勢を研くことが肝要です。自分の行動力を認識し、未来予想図を描ける自分づくりを目指してみてもどうでしょうか。座談会出席者の熱い思いを紙面に載せてお伝えすることで、多くの読者の意識改革・さらなる活躍のきっかけになれば幸いです。

〈企画：出村誠〉

参加者 広瀬 大輔(理学院 数学/DC3)、黒澤 徹(理学院 量子理学/DC1)
郭 桂芬(農学院 環境資源学/DC3)、市村 豊(工学研究科 機械宇宙工学/DC2)

S-cubic は、北海道大学が産業技術総合研究所(関西センター)と連携して推進している事業です。
この事業は、大学院博士課程学生(DC)や博士研究員(PD)等の若手研究者が、特に産業界において活躍するための課題を明らかにし、組織的な支援を行うものです。
北海道大学 大学院理学研究院内に本プロジェクトの拠点となる「基礎科学上級スキル人材ステーション(Superior Skill Station) :


基礎科学S-cubic」を設置し、4つのプログラム(C-net, Advanced COSA, 赤い糸会、J-window)を進めています。
本事業は文部科学省委託事業として、平成18年度から20年度まで行いますが、平成21年度以降は、北海道大学に推進組織を作り、大学事業として継続します。(詳細は10ページ)

C-net

若手研究者、企業双方のPR・求人情報を掲載する登録制(無料)の双方向Webシステムです。登録はS-cubic ホームページから「S-cubic登録」を選択して下さい。


【PRシート登録企業】 ※一部抜粋

JFEスチール(株)、(株)日本製鋼所、富士電機アドバンステクノロジー(株)、富士通(株)、(株)半導体エネルギー研究所、(株)テクノジャパン、三井化学(株)、積水化学工業(株)、三菱レイヨン(株)、(株)クラレ、日東紡績(株)、日本電信電話(株) (NTT) など



【PRシート登録若手研究者 所属】 ※一部抜粋

- 北大・・・理学院(化学・量子物理学・宇宙物理学・自然史科学・生命理学の各専攻)、生命科学院(生命情報分子科学・生命システム科学・生命医薬科学の各コース)、農学院、医学研究科、工学研究科、電子科学研究所、創成科学共同研究機構など
- 北大以外(事業連携機関)・・・(独)産業技術総合研究所(関西センター、つくばセンター)




Advanced COSA

企業の第一線で活躍されている研究所所長クラスの方々を講師として、講義形式で大学の中で触れることの少ない企業研究の魅力や研究マネジメント等を、学位取得者の活躍事例を交えながら、ケーススタディとして紹介します。
※平成21年度以降も大学院共通授業科目、理学院共通科目として修士課程にも開講します。ぜひご参加下さい!


【講師の企業・機関】

旭化成(株)、(株)アルバック、エーザイ(株)、オリンパス(株)、花王(株)、塩野義製薬(株)、JSR(株)、シャープ(株)、新日本製鐵(株)、ソニー(株)、第一製薬(株)、帝人(株)、(株)ニコン、日産自動車(株)、BASFジャパン(株)、(株)日立製作所、三井化学(株)、(独)産業技術総合研究所



【参加若手研究者の所属・専攻】 ※一部抜粋

理学院(数学・化学・量子物理学・宇宙物理学・自然史科学・生命理学の各専攻)、生命科学院(生命情報分子科学・生命システム科学・生命医薬科学の各コース)、農学院、保健科学院、環境科学院、教育学院、工学研究科、情報科学研究科、医学研究科、獣医学研究科など



□ Advanced COSA参加若手研究者の声 ————— 参加若手研究者のアンケートより

■もっとこのような場を提供してもらいたいと思います。普段は研究室にいて、なかなか幅広い知識を得ることができないので、企業の方のお話を聞かせてもらうととても勉強になります。


■講義を受ける前は、博士号取得者の就職支援は、企業が求めているというよりは救済の色合いが強いと思っていた。しかし、実際は人材として求められている割合が多いことを知ることができ、これからの進路を考える上で大変役に立ったと思う。

赤い糸会

1会場あたり約20社の企業担当者と約40名の博士研究者(DC・PD)が分野を超えて一堂に集います。企業からのショートトーク、若手研究者のポスターによる自己PR、交流会によって企業担当者と若手研究者の直接交流を行います。H19年度から企業研究所見学会も開催し、大変好評を得ています。平成20年度からはキャリアセンターとの共催で開催しています。


【参加企業】 ※一部抜粋

旭化成(株)、(株)アミノアップ化学、(株)アルバック、(株)IHI、出光興産(株)、(株)クラレ、KDDI(株)、(株)コーセー、JSR(株)、JFEスチール(株)、塩野義製薬(株)、シャープ(株)、新日本製鐵(株)、住友化学(株)、住友電気工業(株)、帝人(株)、(株)東芝、東レ(株)、(株)ニコン、日産自動車(株)、BASFジャパン(株)、富士通(株)、富士電機ホールディングス(株)、古河電気工業(株)、三菱化学(株)、(株)三菱総合研究所、三菱電機(株)、三菱レイヨン(株)、明治乳業(株)、(株)リコーなど



【参加若手研究者(DC・PD)の所属・専攻】 ※一部抜粋

- 北大・・・理学研究院、理学院(数学・化学・量子物理学・宇宙物理学・自然史科学・生命理学の各専攻)、先端生命科学研究院、生命科学院(生命情報分子科学・生命システム科学・生命医薬科学の各コース)、地球環境科学研究院、農学院、医学研究科、獣医学研究科、工学研究科、情報科学研究科、電子科学研究所、創成科学共同研究機構など
- 北大以外(事業連携機関)
 - ……………(独)産業技術総合研究所(関西センター、つくばセンター)



□ 赤い糸会参加若手研究者の声 ————— 参加若手研究者のアンケートより

■大変良い刺激になりました。企業側のニーズがわかり、今後へ生かせそうです。

■企業側のニーズ、採用実績、そして具体的な博士の働き方について、ある程度聞けたので良かった。

■このような機会は今後も利用していきたい。私は物理学が専攻だが、今回の「赤い糸会・東京」に参加して、化学や高分子の分野も面白いと感じることが出来た。

■赤い糸会は大変良いイベントだと思うので、回数をもっと増やして欲しいです。

J-window

企業一若手研究者間のリンクを構築し、若手研究者の専門領域と企業とのマッチング、企業選定の考え方やキャリアプランの立て方等をアドバイスし、就職活動をサポートするプログラムです。また、研究者意識調査(※)や企業求人情報の取りまとめ、その他、利用者が見たい情報が掲載されています。

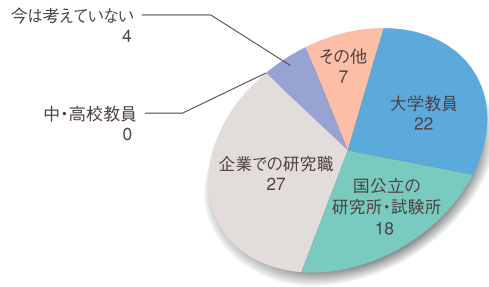
(※) 意識調査について、... 下記の意識調査を行い、結果についてはS-cubicホームページに公開しています。
※調査結果の一例は8ページをご参照下さい。

■就職に関する意識調査アンケート(在籍中のDC・PD対象) ■就職に関する意識調査アンケート(DC課程修了したDC・PD対象)

■若手研究者人材育成に関する教員向けアンケート



あなたはどのような分野に就職を希望していますか？

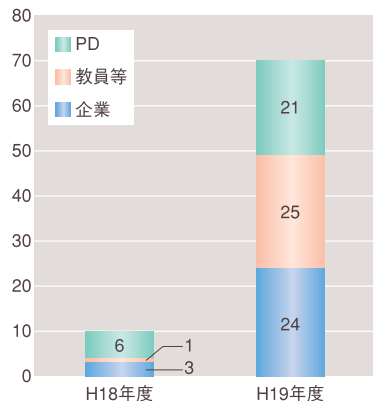


【H19年度 意識調査アンケートより】 ※北海道大学理学系DC・PD対象 回答数=78

□ S-cubic 登録者の就職

■H18年度 調査数10名
(教員1、PD6、企業3)

■H19年度 調査数70名
(教員25、PD21、企業24)
※調査日:平成20年10月



【就職企業】 ※一部抜粋

(株)IHI、オリンパス(株)、サイエンス・テクノロジー・システムズ(株)、塩野義製薬(株)、新日本製鐵(株)、セイコーエプソン(株)、(株)豊田中央研究所、日本電信電話(株)、(株)日立製作所、みずほ情報総研(株)、三井化学(株)、三菱レイヨン(株)など

□ S-cubic 広報活動

本事業では、毎年パンフレット、リーフレット、S-cubic通信などを発行し、学内の教職員、学生、他大学・関連企業等へ配布しています。また、ホームページ(<http://www.sci.hokudai.ac.jp/s-cubic/>)を常設し、新着情報の公開、企画への参加募集等を行っています。また、学内外の各種イベント(“産学官連携イノベーションフェア”等)にも積極的に参加し、事業内容のポスター展示、広報活動を行っています。

新聞・報道機関からも以下の記事が紹介されております。(一例)

●平成18年10月3日 日刊工業新聞:事業紹介「若手に企業交流促す」

“北海道大学は産業技術総合研究所と共同で、理学系の博士学生・博士研究員(ポスドク)ら若手研究者と企業との交流を促す活動を始めた。(中略)両者の意識改革と就職の橋渡しが狙いで、将来は科学基礎力を伸ばすための授業を、包括連携企業などと協力して構築する方針だ。”

●平成19年11月10日 読売新聞コラム:赤い糸会・東京(H19年度)の紹介「漂う博士—大学は就職支援に本腰を」

“都内のホテルで北海道大学の若手研究者と企業の人事担当者による交流会が開かれた。研究者は、自分の研究をポスターにまとめて展示し、説明した。(中略)企業ごとの相談ブースが開設され、研究者と担当者は顔を寄せて話込んだ。これからは、若手研究者の進路へのサポートも大学評価の対象となる。”

企業の声

Q1	A
研究者(DC・PD)に期待する資質・能力についてお聞かせ下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ■自身の専門分野にこだわらずに、幅広い産業分野のニーズに挑戦できる能力。【シンクタンク】 ■入社後間をおかず、テーマ提案を行いグループリーダーとなって研究を推進する立場に立たされるので、自身の専門分野のみならず広く技術全体に目を向け、研究テーマに取り込むセンスと指導力が望まれる。【製造業】 ■専門分野の基礎知識の深さと見識、周辺分野の広い知識を期待する。また一企業人としての人間的な側面(協調性、実行力、判断力等)についても年齢相応の資質・能力を期待する。【総合電機】 ■現在では、卓越した個人能力ではなく、チームワークの果実として創業が結実することから、チームワークを重んじる協調性を持った将来の創業プロジェクトのリーダーになっていただくことを期待する。特に、DC・PDには、可能な限り戦力となることを期待している。【製菓業】
Q2	A
研究者(DC・PD)が就職活動において、アピールしたほうが良い点、注意すべき点がありましたら、お聞かせ下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ■当社の採用活動では、大学名、学部、学歴等一切考慮しない。DC・PDを前面に出したり、専門分野にこだわりを見せるのはマイナスとなる。その業界、会社に入ると、専門以外のことでも頑張るといった姿勢が大事。【化粧品】 ■他人や他の分野の人と積極的にコミュニケーションができることをアピールすること。希望する会社のことを事前によく研究していることをアピールすること。【シンクタンク】 ■アピールしたほうが良い点は、専門性、および、専門分野の基礎知識の深さと見識。希望の技術分野やフェーズ(基礎発掘、実用化開発研究、製品化技術開発)と個人的なモチベーションの関連。(個人的な志向性や情熱、性質など)注意すべき点は、学会とは異なり、専門知識に共通基盤がない聞き手に対して、理解してもらえるようなプレゼンが好ましい。【総合電機】 ■採用面接時には、自分の研究成果について、何が新しいのか、自分の独自のアイデアはどこか、サイエンスの発展にいかにか寄与できたか、結果に至るまでの苦労話などを質問している。特に、指導教授のアイデアや指示と自分が設定した仮説を明確に区別して説明することが肝要である。【製菓業】
Q3	A
博士号取得の有無は就職活動に影響しますか？	<ul style="list-style-type: none"> ■博士号取得は選考要素の一つである。【鉄鋼業】 ■影響する。博士号取得者は、ある時期に集中的に物事を考えたことのある人であるから、この点を主張した方が良い。【シンクタンク】 ■かつてとは異なり、博士号取得者は珍しい時代ではなくなってきている。現在の当社での採用に、博士号の取得が有利または不利に働くことは基本的でない。【総合電機】
Q4	A
赤い糸会に参加された企業の方へ赤い糸会における研究者のポスター発表で、研究者の能力・資質等を把握することができましたか？どのような感想をお持ちかお聞かせ下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ■研究者の能力を把握する機会としては有効であったが、ポスター発表の大半が、学会のポスターセッションのような構成になっており、学術的内容に終始していたように思う。研究内容を理解するには十分であるが、それをどのように企業で活かせるか、といった主張があるとよいと思う。【シンクタンク】 ■赤い糸会に参加される研究者の方々は、概ね積極的でオープンな姿勢を持っていると感じた。【製造業】 ■ポスター発表は非常に興味深かった。研究者の方々のやり取りで、異なる分野であっても発表された方々の高い知的能力と資質を感じることが出来た。【鉄鋼業】
Q5	A
赤い糸会に参加された企業の方へ赤い糸会に参加して、DC・PDに対する意識に変化はありましたか？	<ul style="list-style-type: none"> ■企業への就職に積極的な姿勢を持っていることは十分に理解できた。この意味で、少し前の博士課程の大学院生とは、著しく変わってきているという印象を持った。専門領域について、熱意を持って一生懸命説明していた姿勢は、企業関係者に強い印象を与えたと思う。【シンクタンク】 ■DC・PD全般への意識変化は特にないが、北大に限らず、企業での採用活動を通して感じることは、DC・PDの専門性や基礎学力に関して、ここ数年、DC・PDの中での個人差が大きく開いていくような傾向を感じる。【総合電機】 ■民間企業への就職に対する意欲が予想していたよりも強く、また研究者の方々が様々な場で自分の力を試してみたいと意欲的に考えられていることが分かった。【鉄鋼業】

今後の北大における若手人材育成について

本事業を開始した平成18年は、「日本は科学技術立国を目指しポストドクター(PD)等1万人支援計画を推進するなかでの博士の大量失業」というセンセーショナルな言葉が新聞紙面等に踊った年でした。

本事業を進める中で、多くの博士研究員や大学院生や企業採用担当者、大学教員と話す機会を得て、本事業が単なる「博士号取得者の就職斡旋」ではないことが分かりました。本事業期間の3年間に北大においては、どこにその問題の本質があり、何が最もよい解決策なのかを推進委員一同で考えました。

PDを作らないという考え方もありますが、現在の大型研究がプロジェクト型で進み中で、PD制度は不可欠なものとなっています。そこで、もっと積極的にPD制度を活用する方策を取るべきと考えました。

これにはPDに対する方策(キャリアパスや育成プログラムなど)とともに、PDにつながる大学院教育(特に博士後期課程)、さらにはPDの後に続く大学における若手研究者育成制度(採用、育成プログラム、テニュアトラック制度など)、これらが密接に連動することが重要と考えています。

またこの育成にインターンシップ等を通して企業における研究活動が連携することも重要です。平成21年度にこれらを統括して全学的な観点から若手研究者育成を考える「北大人材育成本部」を構築し、現在進めています「キャリアパス多様化促進事業」および「女性研究者支援モデル育成事業」を出発点に若手研究者、企業担当者、教員の方々の声を積極的に聞きながら発展させていきます。どうぞご協力・ご期待ください。

北海道大学大学院理学研究院

「北海道大学基礎科学人材社会活躍推進計画」事業推進リーダー

教授 川端 和重

就職協定について

平成20年10月14日付で、(社)日本経済団体連合会から「大学卒業予定者・大学院修了予定者等の採用選考に関する企業の倫理憲章」が発表されています。大学院生に関係する内容は、以下5項目となっています。

詳しくは、北大キャリアセンターHP (<https://ccsup.academic.hokudai.ac.jp/cc07/index.html>) をご参照下さい。

- 1 正常な学校教育と学習環境の確保…………… 採用選考活動にあたっては、大学等の学事日程を尊重。
- 2 選考活動早期開始の自粛…………… 修了学年に達しない学生に対して、面接などの実質的な選考活動の自粛。
- 3 公平・公正な採用の徹底…………… 男女雇用機会均等法に沿った採用選考活動。自由な就職活動を妨げる行為(正式内定日目の誓約書要求など)はしない。
- 4 情報の公開…………… 企業情報、採用情報の速やかな公開。
- 5 採用内定日の遵守…………… 正式な内定日は10月1日以降とする。

企業紹介のセミナー・エントリー等は修了年度の前の年度の後半頃から始まるケースもあるので、ホームページ等には注意しておきましょう。

S-cubic 通信バックナンバー

S-cubic通信についての配布のご希望は、北海道大学基礎科学S-cubic事務局で受付しておりますので、どうぞお問い合わせ下さい。

また、ホームページ <http://www.sci.hokudai.ac.jp/s-cubic/program/jwindow/press.html> からダウンロード可能です。 ※各種お問い合わせは、S-cubic事務局までお願いいたします。

お問い合わせ

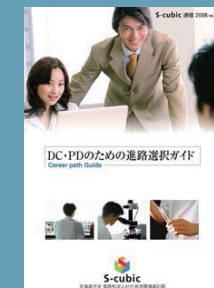
基礎科学上級スキル人材ステーション (基礎科学S-cubic)

〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目 北海道大学 理学部本館2F N226B

TEL:011-706-3275 FAX:011-706-3584

E-mail:s-cubic@mail.sci.hokudai.ac.jp

HP:<http://www.sci.hokudai.ac.jp/s-cubic/>



- S-cubic通信 No.1
- (コンテンツ) A4版、全11頁
- 産業界におけるDC・PDへの期待
 - 企業の視点から (博士課程修了者への考察)
 - S-cubicとは?
 - 北大OBの企業就職者インタビュー
 - S-cubicイベント参加体験記
 - S-cubicの事業について (4つのプログラム)
 - DC・PDの就職活動
 - イベント・アクセス



- S-cubic通信 No.2
- (コンテンツ) A4版、全12頁
- 特集 インタビュー 「北大OB若手研究者に聞く!」 ~Basic COSA講師を招いて~
 - 北大OBの企業就職者・内定者インタビュー
 - 企業の視点から (赤い系会参加企業の声)
 - S-cubic4つのプログラム
 - イベントスケジュール

編集後記

S-cubic通信の作成にあたり、DC・PDの皆さんにご協力いただきました。編集サポーターの皆様、本当にありがとうございました。

編集サポーターの皆様よりひとこと

私は、S-cubicイベントへの参加がきっかけになって企業への就職を決めた一人です。DCやPDにも進路の選択肢が数多くあり、そして周りにはその想いを後押ししてくれる人がいることを知りました。まずは本誌を気軽に手に取っていただきたいと思います。もしかしたら人生の転機になるかも!?

生命科学院 PD 久保 恵美

S-cubicの赤い系会、PR冊子編集会議などに参加するようになり、1年足らずの間に企業研究職へのイメージが大きく変化しました。企業の研究所を見て、重要なことは自分が興味を持っている内容に常に取り組める環境であり、それを実現するのは自分次第であるということに気づかされました。PR冊子作成に携わったことで、自身の将来についても考える機会が多く得られ、企業、大学問わず研究職に対して感じる疑問に少しずつ自分の中で回答が得られていったような気がします。

電子科学研究所 DC2 野村 真未

PR冊子編集の仕事に関わることで、博士号取得者がどのようにして道を見極めて進んでいったのかを学ぶことができ、自分自身にとっても大変参考になりました。

私は、将来どうするかまた具体的に決めておりませんが、S-cubicの活動を通じて学んだことを糧に、じっくりと考えたいと思います。

S-cubic関係者の皆様ならびにPR冊子をお読みくださった皆様に感謝致します。

理学院 DC1 田村 和志